

LMcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **R.MIYATA**

2019 SUPER GT Round 7, SUGO GT 300km RACE

9月22日 | 天候：雨 | コース：スポーツランドSUGO | 路面：ウェット(路温：23度)

Final Day Summary

14番手から追いつけるレースを想定したが
不運にもタイヤ選択が外れたこととペナルティを受けたために
19位でレースを終える

Final Day

SUGO GT 300km RACE」の決勝レースが9月22日(日)に宮城県のスポーツランドSUGOで実施された。

SUPER GT が開催される8つのサーキットの中でもっとも1周の距離が短いスポーツランドSUGOは、トラフィックが発生しやすくコース幅も狭いことから荒れるレースとして知られる。そして、決勝日の22日は事前の天気予報で雨が降ることが予想され、より展開を読むことが難しくなった。



21日に行なわれた予選は、宮田莉朋選手が2組に振り分けられた14台の中で6番目のタイムを記録して予選Q1を突破。予選Q2では吉本選手が14位を獲得し、300kmの決勝レースは14番手からのスタートとなった。

22日の決勝レース日は午前9時からサポートレースが実施され、その後にピットウォークが催された。12時25分からは決勝レース前の最終確認の場となるウォームアップ走行がスタート。天気予報ではすでに天候が崩れてもおかしくなかったが、空は曇っているものの雨が降る気配はない。20分間のウォームアップ走行は、まず宮田選手が先にSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り、続けて吉本大樹選手がステアリングを握った。2人のドライバーが計13周を走行して、決勝レースに向けた準備を整えた。

13時過ぎにはスタート進行が始まり、GT500クラスとGT300クラスの計43台がグリッドに整列する。この時点では雨が降っていなかったが、スタート時刻の14時が迫るにつれて空が暗くなり、スタート前にはついに雨が降り出した。

Final Day

LMcorsa は、この雨はすぐに止みレースが始まると路面は乾いていくと想定し、スリックタイヤを履いたままスタートを待った。300km の決勝レースは定刻の 14 時に開始するが、スタート直前に雨足が強くなったことでセーフティカースタートが宣言された。3 周目にセーフティカーがピットに入り、レースはリスタートする。この 3 周の間にも雨は降り続け、レインタイヤを選択したチームが有利なコンディションとなっ



てしまう。スタートドライバーを務めた宮田選手は暴れるマシンをねじ伏せながら走るが、レインタイヤを履くマシンのパフォーマンスには勝てない。レースがスタートしてわずか 1 周で 4 つのポジションを失うと、翌周にはさらに 6 台にパスされて 24 番手まで後退する。スリックタイヤでレースをスタートした車両は、この状況にたまらずピットに戻ってレインタイヤに交換する。LMcorsa はコース上で粘る戦略を採るがコースコ

ンディションは改善せず、10 周目に宮田選手をピットに呼び戻してレインタイヤを装着。24 番手でレースに復帰した宮田選手は、GT300 クラスの中で最速のタイムをマークし追い上げを図る。しかし 20 周を過ぎたところで、10 週のピットストップ時にメカニックの装備違反があったと指摘され、ペナルティを受ける。23 周目に宮田選手はドライブスルーペナルティを消化し 28 番手に後退。この時点でトップとは 2 週のギャップを付けられ、上位進出は難しい状況となる。

レースが中盤に入った 35 周目になると GT500 クラスのマシンがコースオフしたためにセーフティカーが導入される。5 周のセーフティカーランを経て 40 周目にレースはリスタート。この周に宮田選手はピットに戻り吉本選手にドライバーチェンジするとともに、給油とタイヤ交換を行なう。吉本選手は 24 番手でコースに復帰し、ウエットコンディションの中で必死に先行車を追った。44 周目には 22 番手に浮上すると 46 周目には自己ベストタイムをマークする。レースが終盤に入ると路面温度が下がっていき、装着しているレインタイヤに熱が入らずグリップが得られなくなる。それでも吉本選手は踏ん張り 63 周目に 19 番手に順位を上げ、75 周目に 19 位でチェッカーを受けた。



前戦のオートポリスラウンドではタイヤ選択が的中したが、今戦はスタート時の装着タイヤが適していなかった。そんな苦しい状況でもチームとドライバーは最後まで戦い切った。いよいよ次戦はシーズンを締めくくる最終戦となる。有終の美を飾るように 1 ヶ月ほどのインターバルで最大限の準備を行なう。

Team Comment



Director :飯田 章

結果的に見るとスタート時点でレインタイヤを選択したチームが上位に入りましたが、スタート前の状況でスリックタイヤを履く選択が間違っていたとは思いません。ピットストップ時の違反でペナルティを受けたことは残念ですし、19位というリザルトは望んだものではありませんでした。それでも、ドライバーとチームはベストを尽くして頑張ってくれました。次戦は最終戦でノーウエイトとなるので、実力が試されます。コンディションに合わせた戦いができるように状況を整えたいです。



Driver :吉本 大樹

スタートでスリックタイヤを履いたのは雨が止むという読みだったのですが、それが外れてしまいました。結果的には作戦が失敗でした。加えてペナルティを受けたこともあり、勝負権を失いました。私のスティントでは路面温度が低く、タイヤが温まらずグリップが得られませんでした。コースコンディションと合わなかったのだと思います。ダンロップの強みとしていたレインタイヤが威力を発揮できなかったので、このデータを元にメーカーとともに良いものを開発していければと思います。



Driver :宮田 莉朋

チームとしてはスタートしてから路面が乾いていくことを想定してスリックタイヤを選びました。スリックタイヤを履いていたマシンの中では悪くないラップタイムだったと思います。しかし、徐々に雨量が多くなったためレインタイヤに交換しました。レインタイヤは最初の雨量が少ないコンディションだと厳しかったですが、中盤はタイム的に悪くはなかったはずですが、追い上げようとしたのですが、ペナルティを受けてしまい残念な結果となりました。

